

# 第 18 回 最上小国川流域環境保全協議会

## 資 料

令和 2 年 3 月 1 0 日

山 形 県

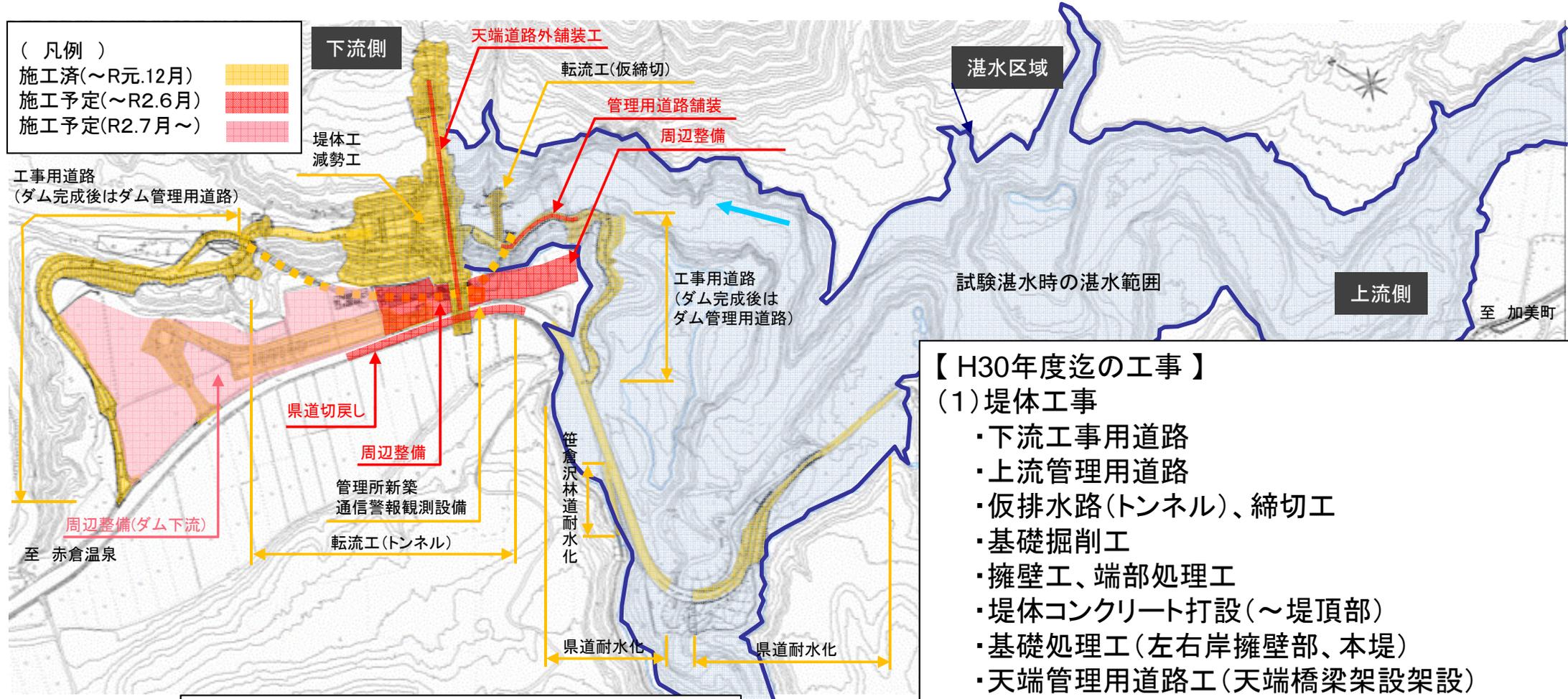
# 第18回 最上小国川流域環境保全協議会

令和2年3月10日(火)13:30～

場所 最上町立中央公民館2階 みどりホール

# 1) 工事の進捗状況について

# ◆工事の進捗状況



- 【 H30年度迄の工事 】**
- (1) 堤体工事
- ・下流工事用道路
  - ・上流管理用道路
  - ・仮排水路(トンネル)、締切工
  - ・基礎掘削工
  - ・擁壁工、端部処理工
  - ・堤体コンクリート打設(~堤頂部)
  - ・基礎処理工(左右岸擁壁部、本堤)
  - ・天端管理用道路工(天端橋梁架設架設)
  - ・上流管理用道路
  - ・管理棟工事
  - ・法面保護工
  - ・仮設工(コンクリート製造設備、濁水処理設備等)
- (2) 県道迂回路
- (3) 県道補強工事
- (4) 林道補強工事

- 【 令和元年度の工事 】**
- (1) 堤体工事
- ① 天端橋梁地覆・高欄
  - ② 閉塞工
  - ③ 端部処理工
  - ④ 上流管理用道路
  - ⑤ 下流工事用道路

# ◆工事の進捗状況(H30年度迄)



仮排水路(トンネル) H28転流開始



基礎掘削完了、堤体打設開始 (H29. 4)



定礎式(H29. 6. 13)



放流設備据付(2門) (H29. 7)



ダム堤体工事状況 (H30. 4)



天端橋梁架設完了 (H30. 12)

# ◆工事の進捗状況(R1年度実施)



ダム本体(下流) R1. 7転流終了前



維持放流管据付(1本) (R1. 8)



天端橋梁地覆施工状況 (R1. 10)



湛水式 (R1. 12. 27)



試験湛水状況 貯水前 (R1. 12. 27)



試験湛水状況 満水 (R2. 1. 14)

# ◆工事の進捗状況



(撮影 着工前)



(撮影 R1. 8月)

## 2) 前回の協議会における 指導事項と対応について

# 第17回協議会指導事項と対応 1 / 2

## 第17回協議会概要

開催日時 平成31年3月13日（水）

主な議事 平成30年度環境影響調査の報告について

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1) 濁度観測       | 6) ナガミノツルケマン調査 |
| 2) 猛禽類調査      | 7) 魚介類調査       |
| 3) ヤマセミ調査     | 8) 底生動物調査      |
| 4) イチゴナミシャク調査 | 9) 付着藻類調査      |
| 5) ヒメギフチョウ調査  | 10) 河床状態調査     |

## 第17回協議会の指導事項と対応

分類	指導内容	対応
濁度観測	<ul style="list-style-type: none"><li>・濁度計測は、欠測防止のため引き続きメンテナンスを行うこと。</li><li>・協議会としても、濁度についてはしっかりと対応していく必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・欠測防止のため、月に1回の頻度で濁度計のメンテナンスを行った。</li></ul>
猛禽類調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・調査結果からは、クマタカに対する工事による影響はないと考えられる。</li><li>・猛禽類は生態系上位性種であり、環境の変化に敏感である。今後のモニタリグからは外すことができない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和2年3月まで猛禽類調査を実施し、試験湛水による影響を確認した。</li></ul>

# 第17回協議会指導事項と対応 2 / 2

## 第17回協議会の指導事項と対応

分類	指導内容	対応
イチゴナミシヤク調査	・情報不足種ではあるが、希少な種である。今後も調査を継続してほしい。	・令和元年8月下旬に調査を実施したが、本種は確認できなかった。
(ヒメギフチョウ調査)	・ダム周辺までは分布を拡大していたことが分かった。調査を実施してもらいたい。	・平成30年度にヒメギフチョウの追加調査を実施し、課題は解消済み。
ナガミノツルケマン調査	・意見なし	・平成30年度に新たな播種地を創出し、事後モニタリングを継続実施した。
魚介類調査	・⑦田代橋上流地点で確認されているハナカジカは特殊な環境に生息する種である。確認地点は湛水域からは外れるが、見守っていく必要がある。	・令和元年の調査ではハナカジカ確認されなかった。生息個体数が少ないためと考えられる。
底生動物調査	・意見なし	・令和元年度も引き続き調査実施
付着藻類調査	・意見なし	・令和元年度も引き続き調査実施
河床状態調査	・意見なし	・令和元年度も引き続き調査実施